

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600234		
法人名	医療法人至慈会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里11831番地18		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 29年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは木造で落ち着いた空間で、周囲には商業施設もあり、環境に恵まれています。
 法人の母体が病院で担当医との連絡、調整と連携が図られています。
 疾患によりリハビリ、栄養管理部との連携により、その方に応じた健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りには花木が植えられており、桜の咲く頃には桜の木の下で食卓を囲み食事が出来るなど、季節毎に楽しむことが出来る。また、廊下のソファは入居者の「憩い」の場所となるなど、入居者の思い思いの場所で過ごせる空間づくりをしており、「ほのぼの」の名前の由来の通り、入居者も職員もほのぼのとした雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごされている。同一敷地内に系列の医療機関が併設しており、必要に応じて連絡や受診をすることができる等、医療機関との連携が取りやすい。栄養面や運動面にも気を配りながら充実した生活が送れる様に工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	西棟	東棟		西棟	東棟
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲げ理念に基づいた支援を実践している	理念を持った支援をスタッフ各自が実践につなげる事が出来ている	業務前や申し送り時に職員間で意識するように努めている。また、常に振り返る事が出来る様に事務室に掲げてある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はないが行事の時に地域の方の参加を通じ交流を行っている。時々地域の方の面会を通して交流が行えている	日常的な交流は難しいが、年数回の行事に参加し又地域の方に参加して頂くことで交流が幾分できている。時々地域の方、知人の方の面会を通して交流が行えている	各地区の敬老会には参加し、地域との交流が図れている。法人内に託児所があり、子供達が訪問などでも交流が図られている。法人内での交流はあるが、外部との交流は少ない。	区長などから地域の方へお声かけいただくことで、ホームとの交流の機会がもてることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方の支援の方法を話す機会があるが、地域貢献は出来ていない	支援の方法を地域の方に向け活かせていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や気付きを職員ミーティングで話しサービス向上に活かしている	話し合いの中での意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者の参加があり、ホームの状況報告や意見交換の場となっている。出た意見は検討し、ホームの運営に反映できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会へ毎回出席して頂いており取り組みの報告は行っている	連携が取れるような取り組みは行っていないが、運営推進会議を通し協力関係は築けている	行政に出向くようにし、行政からの相談にも随時対応出来るようにしている。特に制度の改正時には情報の提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回ホーム内で勉強会を行い職員全員が理解している。マニュアルを作成して取り組んでいる	身体拘束をしないケアは取り組んでいる。マニュアルを作成しており年2回の勉強会で理解できている	随時、勉強会等で理解が深められている。特に職員の入居者に対する言葉遣いについても高圧的にならないように、お互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い職員間でも注意を払い防止に努めている	年2回勉強会を行い、虐待をする環境を作らない。また職員間で注意しあえる環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の勉強会を行っている。成年後見制度を利用される方も増えているので問い合わせなどに対応出来る様今後も勉強会で理解を深め活用できるようにしていく	年1回成年後見制度の勉強会を行っているが、利用される方もおられた為、今後も理解を深めかつできるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っていると思うが、特定職員が行っている為全職員が行える様同席して学ぶ機会を持つ	十分な説明を行っていると思うが、家族様は理解されていない部分もあると思うので不安点や疑問点をいつでも聞かれて良い事を伝えておく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けているが活用される事は少ない。面会時はスタッフが声を掛けて意見を聞くようにしている	玄関に意見箱を設けていて、家族様の面会の際に職員が意見、要望など聞くようにしている	家族の来訪時には話しやすい雰囲気を作っている。また、ホームのたよりに本人の写真や状況も掲載されており、情報の共有をできるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時管理者への意見は言える環境である。ミーティングにて意見、要望は聞くようにしている	随時、管理者への意見など言える環境ではある。各棟ミーティングなどでの意見を聞く機会を設け、出来る事は反映している	法人の中で職員の意見を引き出すことができる。また、会議の中でお互いの意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てる様に環境や条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修を受ける機会を設けている	なるべく研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回町内グループホームの話し合いがある。主に管理者が出席し他の職員も参加できる。町内勉強会等で交流を図っている	地域の同業者との交流として勉強会を行い、サービスの質の向上としての取り組みが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や御家族と面談を行い出来るだけ本人の言葉を引き出し要望を伺うように努力している	入居を希望される段階で本人様にも見学をして頂き、入居後は安心して過ごされる様に職員全員で情報の共有し対応を行うように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で要望を聞き入居時や面会時に随時要望や意見を伺っている	入居される前に御家族様との面談、見学をして頂き要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族の意見を伺い出来るだけ要望を受け入れている。話をする中で必要な支援を見極め可能なサービスに対応している	御本人、御家族様から意見等を伺い、必要とされている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員が会話や軽作業を共にに行いお互い必要とされる関係を築いている	日々の生活の中で共に何かをする事で入居者様を介護される一方的な立場におかずお互いを必要とする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時情報交換し行事を通じ本人、家族、職員が一緒に触れあいながら関係を築いている	年間行事や面会時情報交換し共に介護を行う様働きかけ関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方々が気軽に立ち寄れる環境や雰囲気月理に努めている	なじみの方やご近所の方の面会や見学があった時は気兼ねなく来て頂ける様環境作りに努めている	馴染みの友人・知人が頻繁に来られている。馴染みの理容院等を利用するなど、従来の関係性が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを尊重したうえで入居者同士の関わりが出来る様支援に努めている	一人一人の思いを重視しながら入居者同士の関係がうまく関わり生活出来るように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談を受けている	退所後も御家族様からの相談に応じ関係を大切にしている。法人内に入院された方は時々面会に伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意向も尊重し検討している	入居者様の希望、以降の把握に努めているが、困難な場合は御家族の意向も尊重し検討している	言葉や動作、表情等から本人の希望を汲み取り、支援に反映している。また、それが困難な方については、家族から聞き取り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時御本人や御家族より情報を収集し入居後も本人や御家族から情報を得よう努めている	入居前、入居時御本人御家族様より情報を収集し職員で共有し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で状態を把握し職員間で情報交換を行っている	日々の生活で状態の変化等を職員間で情報交換を行って現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけご本人、家族様の意見を反映させるが、主治医、栄養管理部、PT,OT,ST間で話し合い現状に必要な計画を作成し、毎月モニタリングにて評価している	出来るだけご本人、家族様の意見を反映させるが、主治医、栄養管理部、PT,OT,ST間で話し合い現状に必要な計画を作成し、毎月モニタリングにて評価している	ケース記録にも介護計画が常に確認できるようにしており、計画に基づいた記録となるよう工夫をしている。また、担当以外でも入居者の情報を共有し、チームでケアにあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個人ノートを活用し職員間で情報を共有しミーティングを行い計画の見直しをしている。	介護記録、個人ノートを活用し職員間で情報を共有しミーティングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に対応出来る様取り組んでいる	状況の変化に対応出来る様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人に合った支援の提供が出来るように運営推進会議で介護相談員の方々からの意見や助言を受けている	一人一人に合った支援の提供が出来るように運営推進会議で介護相談員の方々からの意見や助言を受けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体が病院で、グループホームの入居者様には担当医を配置している為、医療の連携は問題なく行えている。専門医療機関を受診する時は看護師が付き添う事もある	法人の母体が病院で、グループホームの入居者様には担当医を配置している為、医療の連携は問題なく行えている。専門医療機関を受診する時は看護師が付き添う事もある	かかりつけ医を継続することができる。また、家族と職員が情報共有することで、スムーズな受診につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師を配置しており職場内では情報を共有し変化時は24時間連絡が取れる。法人内受診が出来る	正看護師、准看護師を各1名配置しており、異変に気付いた時24時間看護師との連絡が取れる。法人内の病院の受診が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医、看護師等病院関係者と情報交換を行い家族様の相談等も受け利用者にとってのベストな状態での退院が出来る様関係作りを行っている	入院時は主治医、看護師等病院関係者と情報交換を行い家族様の相談等も受け利用者にとってのベストな状態での退院が出来る様関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化や終末期については主治医、御家族様と話し合い、ホームでの対応範囲を説明し今後の支援を決めている	病状の重度化や終末期については主治医、御家族様と話し合い、ホームでの対応範囲を説明し今後の支援を決めている	ホームで看取ることができるが、重度化した場合には、家族希望で法人内の病院で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等は行っていないが、急変や事故が発生した時は看護師が勤務中は対応を行い、休みの時は併設の病院へ連絡し受診している。	定期的な訓練等は行っていないが、急変や事故が発生した時は看護師が勤務中は対応を行い、休みの時は併設の病院へ連絡し受診している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回実施している。地震水害の災害に対する訓練も実施。全職員が身につけられる様に計画的に行う。地域の方の協力体制はまだまだ不十分である	防火訓練は年2回実施している。地震水害の災害に対する訓練も実施。全職員が身につけられる様に計画的に行う。地域の方の協力体制はまだまだ不十分である	定期的な訓練がなされている。また火災だけではなく地震、風水害時等の避難マニュアルも作成されている。しかし、地域住民との協力体制はこれからである。	地域住民にホームについて理解をしてもらい、避難訓練の協力体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に言葉掛けや支援を行う時はその方に応じた対応を行っている	入居者様に言葉掛けや支援を行う時はその方に応じた対応を行っている	一人ひとりにあつた対応や言葉遣いに心掛けている。また、個人情報については、厳重に事務室のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の思いが表出しやすい様な対応を心がけて支援している	出来るだけ御本人の自己決定のもと過ごされる様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースで過ごして頂ける様支援を行い、日々の体調に合わせて生活される様支援している	入居者様のペースで過ごして頂ける様支援を行い、日々の体調に合わせて生活される様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族さま、御本人希望に添い支援を行っている。年に数回理容店に依頼しホームにて散髪される。	御家族さま、御本人希望に添い支援を行っている。年に数回理容店に依頼しホームにて散髪される。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をして、片付けも一緒に行っている	利用者様と一緒に食事をして、片付けも一緒に行っている	各人に合わせた食事形態の提供がなされている。また、入居者と一緒に片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養管理部の管理の元その方に合わせた食事量、形態トロミ対応等状態を把握し提供している	法人の栄養管理部管理の元、入居者様の病気や食事摂取時の状態に合わせてその方に応じた食事量、形態を提供している。又水分摂取でむせりがある方はトロミを付け提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に応じた口腔ケアを行い、歯科への受診も必要に応じ対応している	毎食後利用者様に応じた口腔ケアを行い、歯科への受診も必要に応じ対応している		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で利用者様一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しその方の自立度に応じ声かけ誘導などの支援を行っている	排泄表で利用者様一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しその方の自立度に応じ声かけ誘導などの支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけ自立した排泄ができるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘での影響を職員全員理解しており、排便状態を把握し飲食物や薬、運動をその方に応じ取り組んでいる	便秘での影響を職員全員理解しており、排便状態を把握し飲食物や薬、運動をその方に応じ取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日はとりあえず決めて実施しているが、利用者様が希望された時は別棟での対応も行える。	入浴の曜日はとりあえず決めて実施しているが、利用者様が希望された時は別棟での対応も行える。	週3日、曜日を決めて実施しているが、本人の希望でいつでも入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態、状況に応じ支援している	入居者様の状態、状況に応じ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ノートやおくすりノートを活用したり看護師からの情報を職員で把握し薬の変更があった時は症状の変化に注意し些細な事でも気づいた際は看護師に報告している	個人ノートやおくすりノートを活用したり看護師からの情報を職員で把握し薬の変更があった時は症状の変化に注意し些細な事でも気づいた際は看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のその日の気分や意欲で判断しながら支援を行っている。嗜好品は病気や咀嚼の問題もありその方に応じたものをおやつとして提供している	入居者様のその日の気分や意欲で判断しながら支援を行っている。嗜好品は病気や咀嚼の問題もありその方に応じたものをおやつとして提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車での外出が困難な方は外庭の散策を行い気分転換を図っている。御家族との外出は事前に連絡を受けその日の体調に応じ外出される様支援している	車での外出が困難な方は外庭の散策を行い気分転換を図っている。御家族との外出は事前に連絡を受けその日の体調に応じ外出される様支援している	入居者の外出等の希望を確認して外出している。また、法人敷地内では日常的に散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればいつでも使える状態である	少額ではあるが持っている事で安心される方は自分で所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば職員が電話をかけ取りつぎ対応をしている。	入居者様の希望があれば職員が電話をかけ取りつぎ対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には開放的な窓があり景色が見えるようになっている。	入居者様に不快になるような刺激が無いように配慮は行っている。室温はその日の気温で調整を行い適温を維持するよう気をつけている	ホームが平屋の純和風の建物となっており、入居者が懐かしさを感じるづくりとなっている。適宜、換気にも配慮し、臭いがこもらないようにしている。冬場には加湿器も設置され、室温・湿度に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思い過ごしやすい様にソファや長椅子を設置している。冬場は日当たりの良い廊下奥のソファで入居者2~3名が雑談されている	思い思い過ごしやすい様にソファや長椅子を設置している。天気が良い時は窓際にあるソファで時々昼寝をされる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄愛用されていた物や、飾り物、好まれる物があつたら持参して頂き入居者様が居心地良く過ごされる様工夫はしている	入居時に今迄愛用されていた物や、飾り物、好まれる物があつたら持参して頂き入居者様が居心地良く過ごされる様工夫はしている	テレビや写真のほか、長年親しんだ愛用の物は自由に持ち込むことができ、居心地よい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はフラットに出来ており廊下も広く動きやすい環境になっている。また日常生活に必要な場所には張り紙などで解りやすい様工夫している	日常生活に必要な場所には張り紙などで解りやすい様工夫している。建物内は廊下をはさんで居室になっており手すりを使い動きやすい環境である		